

知事記者会見の概要

日 時：平成30年1月10日(水) 10:00～10:41

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) フル規格新幹線の整備実現に向けた今後の取組みについて

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 最近の降雪に対する対応について
- (3) 平昌（ピョンチャン）オリンピックに出場予定の本県ゆかりの選手への期待について
- (4) 県立3病院のシステム統合事業について
- (5) 有罪判決を受けた職員の上告について
- (6) 連合山形 岡田会長の逝去について

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

昨日から庄内地方、庄内地域に発表されていた暴風雪警報ですけれども、本日の明け方に注意報に切り替えられました。そして、現在、県内全域に大雪注意報などが発表されております。昨日からの暴風雪により、交通機関では、飛行機の欠航や列車の運休・遅れなどが発生しております。

さらに、本日から明日にかけて山沿いを中心に大雪となる所があると見込まれておりますので、県民の皆様には、今後とも気象情報などに留意をされまして、強風・大雪に十分注意していただきたいと思っております。

また、今年は、今冬は、雪の降り始めが早く、県内各地で例年よりも積雪が多くなっております。これに伴い、雪下ろしや除雪作業中の事故が相次いでおりまして、これまでに死亡事故3件を含む33件の事故が発生しております。10日7時現在の数字であります。

県では、全域に「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」を発表するなどいたしまして、市町村と連携して、県民の皆様へ事故防止を呼びかけてきております。改めて、雪下ろしの際には「命綱やヘルメットを着用する」、そして「2人以上で作業を行う」など、くれぐれも安全に十分留意をしていただいて、事故の無いようにお願いいたします。

それでは、恒例となりました、祭りやイベントをご紹介します。

まずは、今日は、山形市内で、10日ですから、初市が行われていると思っております。多くのお客さんと賑わってほしいなと願っているところであります。

さて、この時期ですと、日本海の冬の味覚を代表する「寒鱈」にちなんだイベントが県内各地で開催されます。

1月14日、日曜日に、鶴岡市の道の駅“あつみ しゃりん”の「しゃりん寒鱈まつり」をはじめ、21日、日曜日には、鶴岡市の鶴岡銀座商店街で「日本海寒鱈まつり」が、そして、遊佐町西浜地区のマルチドーム“ふれんどりい”で「ゆざ町鱈ふくまつり」が開催されます。

また、27日と28日には、酒田市仲通り商店街をはじめ4つの会場で「酒田日本海寒鱈まつり」、さらに、冬の庄内の味覚を内陸でも堪能することができるイベントとして、28日、日曜日に山形市の霞城セントラルで「第2回寒鱈まつり in 山形」が開催されます。

ぜひ皆様でご賞味いただきたいと思っております。

併せまして、蔵王をはじめ県内各地のスキー場へも足を運んで、ウィンタースポーツもお楽しみいただければというふうに思っております。

私からは、以上です。

☆代表質問

記者

幹事社、山形新聞の田中です。おはようございます。

幹事社からの代表質問は、フル規格新幹線に関してです。

先般、1月5日に、山形圏域3市2町で構成される奥羽新幹線の整備実現同盟会が設立されました。知事も出席されたかと思います。今回の山形圏域の設立によりましてですね、地域単位としての同盟組織が4ブロック全てで整ったこととなります。フル規格の奥羽・羽越新幹線の早期実現に向けて、県民運動として知事は取り組んでおられますけれども、今回の山形圏域の誕生の効果でありますとか、期待でありますとか、そういったことの受止めとですね、この山形圏域を含めた地域組織と連動して、これからどのようにして運動を加速させていくのか、機運醸成でありますとか、沿線自治体の理解をどのように深めていかれるのかをお聞かせいただければと思います。

併せて、JR東日本が福島県境部の抜本的防災対策ということで、昨年11月に調査結果を県のほうに説明をしまして、それを受けまして知事は、12月1日にJR東日本の富田社長と面談なさったということです。これから、山形県としてですね、この福島県境部のトンネルの早期事業化に向けて、どのように取り組んでいかれるのか、併せてお聞かせいただければと思います。

知事

フル規格新幹線の整備実現に向けましては、一昨年5月の全県的な推進組織の設立に続きまして、米沢市、庄内地域、最上地域における地域単位の推進組織の設立や、県内の青年会議所による署名活動の展開など、県内における運動の和は着実に広がってまいりました。

こうした中、今月の5日、今、記者さんからお話がありましたように、県都山形市を中心とする東南村山地域において、本県の経済界を代表する皆様のご尽力のもとで、行政と経済界が一体となった新たな推進組織が設立されました。このことは、県を挙げての運動に一層はずみがつくものでありまして、大変心強く感じているところであります。今後、この組織が県内各地域における推進組織とともに、一緒になってですね、本県における運動を大いに盛り上げていただくことを期待しております。

県としましては、フル規格新幹線の整備実現に向けて、全県的な推進組織と県内4つの地域推進組織とがしっかりとタッグを組んで、県内各地域や団体等を対象としたセミナーや出前講座などをよりいっそう積極的に展開して、県民の皆様の機運の醸成を図ってまいりたいと考えております。

さらに、今後は、JC青年会議所やまちづくり団体などの地域における各種団体などとも連携しながら、将来を担う若者の参加を促す地域ミーティングの開催など、地域レベルの運動をよりきめ細かに展開して、運動の効果的な広がりも図って行って、県民の皆様の一層の理解促進と機運醸成をさらに強く推し進めてまいりたいと考えております。

そして、それとともにですね、政府やJRに対して、フル規格実現に向けての要望活動を展開してまいりたいと考えております。

こうした取組みを進めるにあたりましては、沿線自治体をはじめ、各市町村の積極的な取組みが重要でありますので、フル規格新幹線の意義や効果等について各市町村にしっかりと説明を重ね、県、市町村、経済界、地域が一体となって、オール山形としてフル規格新幹線の整備実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

また、福島～米沢間におけるトンネルの整備につきましては、JR東日本におきまして、現在、事業化するかどうかを検討している段階、今その最中であります。

県としましては、山形新幹線の安全・安定輸送対策は喫緊に対応すべき課題であると考えておりますので、トンネルの早期事業化を求めてまいります。また、これらの検討にあたりましては、将来のフル規格新幹線の実現につながる整備のあり方につきましても、JR東日本と一緒に協力を進めてまいりたいと考えております。

今、協力を進めているところということですので、しっかりとこれを進めてまいりたいと思っております。

☆フリー質問

記者

朝日新聞の前川でございます。おはようございます。

知事、2点ございます。1点目は、今のフル規格新幹線で1点確認ですが、トンネル整備について最後にお触れになりまして、将来のフル規格新幹線につながる整備のあり方について、JRと一緒に協力を進めているところだということでしたが、具体的にはどういう方向で協力を進めたいとお考えでしょうか。

知事

はい、そうですね。2年半位前になりますか、抜本的な対策ということで、JR東日本がですね、検討・調査を進めるというようなことをお聞きしたときに、私がJRに赴きまして、現在のミニ新幹線対応、仕様のトンネルだけでなくフル規格新幹線の仕様のトンネルも、併せて調査をいただきたいということを申し上げたところでもあります。その両方の調査結果が報告されたわけでありますので、今、県とJRとで一緒に協力を進めている段階でありますけれども、やはりフル規格仕様のトンネルをですね、しっかりと事業化していただく、そのことが大事ではないかなと思っております。

記者

フル規格だと、国の整備新幹線に基づく法律もございますし、あと鉄建機構（補足：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）が作ってJRに貸すという仕組みになっているはずですし、今の山形新幹線とは全く違う枠組み、政策的な枠組みなのですね。それを

乗り越えるといいますか、仕組みとして見直す必要もあろうかと思うのですけれども、そういうところまで JR とは協議をしているのでしょうか。

知事

はい。JR さんからはですね、最初から、抜本的な調査を始めるときから「フル規格新幹線は政府の政策です」というふうにおっしゃっておられますし、その通りだと思っています。JR さんとしては、現在のミニ新幹線では、新幹線の名前ついているけれども在来線でございますけれども、まず山岳地帯の抜本的な対策ということでトンネルをお考えになっておられるという状況なわけですね。それで、現在のミニ新幹線仕様のトンネルで一度掘ってしまいますと、また別に掘るというようなことはなかなか困難なことになってまいりますので、フル規格新幹線の整備をしっかりと政府に実行してもらおうということと併せて、やはり平行してやっていくことが必要なんじゃないかと私は思っております。ですから、JR さんと県とで今、担当レベルで鋭意、検討・協議をさせていただいていると思うのですけれども、そういった将来もしっかり見通しての事業化ということで話し合いをしていたらいいことと思っています。それと平行して、フル規格整備ということでは、まだ整備されていない 48 年組の基本計画組としてですね、それはそれでしっかりといろいろな連携を、広域連携も図りながら政府にしっかりと整備計画に格上げしていただく、そのための調査というものもまず一段階あるようでありますけれども、そこはやっぱりしっかりと推していかななくてはいけないということでもありますので、県内、オール山形、そしてその中には国会議員さんたちもおられますので、たくさんの皆さんのお力と一体となってですね、その政府を動かしていくといいますか、働きかけていくことが大事ではないかなと思っております。

記者

ありがとうございました。もう 1 点は雪のことで、冒頭、この冬は降り始めが早いので積雪が増えているようだ、というふうな発言がございました。西川町だと豪雪の年だった昭和 48 年並みの積雪があるということで、豪雪対策本部でしたかを設置するという動きも聞いております。

雪フェスティバルを開催している県としては、雪が多いのは良いことなのかもしれませんが、一方で、降り過ぎるとまたこれはいろいろ問題もあると思います。何か県内で雪対策、防雪といいますか、何かお考え、例えば会議を開くとかあるいは何かをお考えになってることがございますでしょうか。

知事

そうですね、雪は山とかスキー場にだけ降ってくればいいというのが、正直な私の、また多くの方々のお考え方だとは思っておりますけれども、いかんせん、やっぱり雪国

ですのでちょっと多く降り過ぎるときもあります。県としての対策ということでもありますけれども、4ブロックで対策を、市町村の対策本部が立ち上げられますと、一定のその基準があつて、総合支庁でも立ち上げるということになっていて、また総合支庁でそういう本部が立ち上がると県としても立ち上げるという一つの形がありますので、それに従ってしっかりと雪害対策をやっていきたいと思いますし、また対策本部が有る無しにかかわらず、やはり県民の皆さんにとって雪下ろしとかね、除雪というのは大きな問題でありますので、出来る限り、注意報とかそういったものを発令させていただいたりしながら、本当に県民の皆さんお一人お一人が事故に遭われないように、しっかり対応していかなければいけないなと思つているところです。今日、明日もピークだというふうにも聞いているところでもありますけれども、注意報が今、発令中でありますので、本当にくれぐれも事故の無いようにね、県民の皆さんには注意をしていただきたいなというふうに思つております。

記者

ありがとうございました。

記者

NHKの堀川と申します。よろしくお願ひいたします。何点かお聞きしたかったのでありますけれども、まず、新幹線の関係ですとね、先ほど知事も、若者の参加ですとか、県民の理解促進とか、県としてさらに推し進めてまいりたいとお話されていたと思うのですが、そういった県民の機運みたいところは、現状としては知事はどのように感じられていて、繰り返しになるかもしれないのですが、そこをどう押し上げていきたいというふうにお考えなのでしょうか。

知事

そうですね、機運ということでもありますけれども、青年会議所の皆さんがですね、署名活動を行つて下さつていくということが、非常に大きな力になっているのではないかなと私は感じているところです。やはり「将来の山形のためにこれ必要なんだ」ということで署名をしていただく、署名をするときに「あ、こういうことに自分も協力してるんだ」というようなことで、たくさんの県民の皆さんの意識が醸成されていくのではないかなと思つていますので、県内の4ブロックに推進組織が立ち上がったというのが第一歩なんですけれども、それに横串を刺すような形で青年会議所の皆さん方には、署名活動を活発に行つていただいている。そのことがやはり結構県民の皆さんの意識醸成につながっているのではないかなと思つております。そうですね、温度差ももちろんあるかと思いますが、やっぱり若者の熱意というところがとても大事なことだと思つています。あとは、街づくりですね。そういうことに熱心な方々が連動して、他の県民の皆さんを引っ張つてくださるといふようなことが望ましいかなとは思つているのですけれども、もちろん行政と

しても経済界の皆さんやいろいろな分野の、観光でありましたり、行政でありましたり、そういった方々と一緒になってですね、まだまだ意識醸成を図っていかねばならないなとも思っているところです。やはり県民みんなが、「これが県民の悲願だ」というような形になれるようにですね、セミナーでありましたり、討論でありましたり、いろいろなことをやっていければなと思っています。やはり、意識醸成としてはまだ道のり途上なのかなとは思っております。

記者

ありがとうございました。あと、別件なんですけれども、ウィンタースポーツといいいますか、冬のスポーツの関係でですね、平昌（ピョンチャン）オリンピックまで、昨日でちょうど1か月だったんですけれども、スピードスケートに出場される山形中央高校出身の選手が、過去最多というような話もありましたけれども、その受止めといいますか、どういった活躍をご期待されてるかということをお聞かせいただけませんか。

知事

はい、そうですね、平昌（ピョンチャン）オリンピックまで1か月を切ったわけでありますけれども、スピードスケートで山形中央高校出身の選手が4人も出場されると、確か、男子では8人のうちの4人が山形県ゆかりの選手ということで、本当に県民も盛り上がっているのではないかなと思っています。賀詞交換会するときにもですね、何人かの方が「応援に行くんだ」と、「実際に現地へ応援に行くんだ」というようなお話をされておりました。本当に、心から期待をし、楽しみにしていると思いますので、ぜひ、日本選手にはみんなにがんばっていただきたいのはもちろんでありますけれども、その4人の選手にはですね、特にメダルを取っていただきたいというのがやはり、私の期待でございます。県民みんながですね、この4人の選手が世界の舞台で大活躍する、その姿を楽しみにしておりますので、ぜひ、メダルを取っていただきたいというふうに思っているところでございます。

記者

来週からは蔵王でワールドカップも行われるということで、そういった冬のスポーツが、県内で機運が高まっていくというか、そういった期待もありますか。

知事

そうですね、はい。ウィンタースポーツ、雪国でありますので、本県はワールドカップを実際に見られる地域でもございますので、たくさんの人材、選手がですね、育ってほしいなと思っておりますし、冬のオリンピックで大活躍してほしいなというふうに思っています。大いにですね、ワールドカップでも大暴れをしていただいて、オリンピックでもま

すます存分に力を発揮していただければというふうに思っています。

記者

河北新報の宮崎です。よろしくお願いします。県立病院のシステム整備計画について3つお伺いしたのですけれども、1月に入札の公示が迫っている段階で、かつ、年度内に落札決定するという段階で、12月の定例会でもですね、入札の仕方そのものに、疑問とかの声が相次いでる事態になっています。そのことで、所管は知事部局ではないのでしょうかけれども、県のトップに立たれている知事としてどういうふうにご覧になられているでしょうか。

知事

そうですね、病院事業局の所管ではありますけれども、県立病院4つありまして、電子カルテのシステムをどういうふうにしていくかということだと思いますので、確か、外部有識者の方にも入っていただいて、有識者のお考えもお聞きしながら、粛々と進めるという形になっているかと思っておりますので、12月の議会でもそういった説明をしっかりと申し上げたというふうに聞いているところです。入札でありますので、県民の皆さんに説明をしながらですね、粛々と進めていただくのがよいのではないかなと思います。

記者

システムをまとめて同一メーカーのパッケージソフトを入れる入札の仕方については、知事はどういうふうにお考えでしょうか。適切なのか、またはちょっとそれは問題があるとか、そういったところのお考えというものはあるでしょうか。

知事

私自身はどうかということはないのですけれども、そういった病院のシステムといったことに詳しい有識者の方のお考えも、これは公開でお聞きしているということでもありますので、その方のお考えでもやはり、同じシステムが望ましいのではないかということだったと聞いておりますので、そういった形でもよろしいのではないかというふうに思っております。

記者

でも、平成22年にですね、1回システム統合をしようとしたのですが、失敗したと聞いてます。それで、それから8年経ってですね、8年間の間に病院事業局、議会のやりとりを聞いているとですね、8年間あったのに、結局、3年前ぐらいから始めて、結果的に時間切れでシステム統合を一気にできなくて、段階的にせざるを得ないと。それで、余計にお金がかかると。この8年間でですね、無駄にしたということについては、知事としてはど

ういうふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね、無駄にしたと言えるかどうか、その21年か22年の頃だったと思いますけれども、そのシステムを、私の記憶にあるのは「エクスカリバー」とかいう、そういった名前だったかなと思いますけど、実際には存在しなかったといいますか、そういったことがあって、キャンセルといいますか、そういったことがあったかと思います。そのあと、ちょっと時間が経ってしまったのは、やはりそれなりの事情があったのではないかなと思っております。ですから、無駄と言えるかどうかちょっと分からないところであります。

記者

でも、結果的にはシステムが統合できなくて、結果的に、段階的ということでお金も余計かかるわけですね。そういうことについてはどういうふうにお考えでしょうか。普通であれば、上手くいかなければ次の手を打ってですね、そんなに大事なものであれば、次から次と打って、そうであればですね、37億円というような額はかからなかったと思うのですけれども、結果的に税金が多くかかってしまったということについてはどういうふうに認識されていますか。

知事

お金が多くかかったかどうかといいますか、これから将来に向けて、それがですね、かからない方向に行くのかどうか、そういったこともあるかと思っておりますので、病院事業局の判断かなと思っています。好き好んで時間をかけてきたのではないというふうに聞いておりますので、やはりそれぞれの病院のシステムの契約の時期も違うとかですね、順々にやっていかざるを得ないというようなこともあるかと思っておりますし、またトータルで考えれば一度にやってしまうよりも、逆に平準化できることでもあります。予算としてですね。そういった面もあろうかと思っております。確か、有識者のお考えといいますか、病院事業局で説明申し上げたときに、きちんとしたその説明を聞いて納得していただけたということも聞いておりますので、今、記者さんのおっしゃるようなこと、側面だけではないような気がいたします。今、ちょっと、詳しいことは手元に資料はないんですけれども。

記者

YBCの渡辺と申します。お願いします。

昨年末に、痴漢の罪で県職員の方が東京高裁の控訴審で有罪判決を受けたのですが、その後、上告の手続きを取っているわけですが、処分関係で、確か以前、知事はですね、控訴審の判決をまず待って、判断していくというようなお話をされていたと思うのですが、控訴審で有罪判決が出たということで、処分関係というのはこれからどういうふうになっ

ていくのかお考えになっているかというところを伺いたいのですけれども。

知事

はい。処分については、どういうふうになつていたのでしたでしょうか。はい。

総務部長

総務部長の大森でございます。

当該事案につきましては、昨年末に判決が出たと承知をしております。現在、その判決内容を精査をしておりますのと、それから本人が上告をされておるといふ状況、こういったところを踏まえて、今、内部で精査をしているところでございます。

知事

よろしいでしょうか。

記者

上告の結果と申しますか、判断を待つてという形になるのでしょうか。

知事

いや、判断を待つかどうかまでは、どうなのでしょう。

総務部長

はい。今申し上げましたように、判決の内容、それから本人が上告されているという事実と、こういうことを踏まえて今検討していると、こういう状況でご理解いただければと思います。

記者

すみません、山形新聞の田中です。2点教えてください。

1点目、先ほどの平昌（ピョンチャン）の絡みなのですが、1か月ということで、スピードスケート4人が代表権取りましたけども、ほかにも、例えば、スノーボードアルペンの斯波正樹であるとかですね、スキーマフreesタイルの鈴木沙織であるとか、バイアスロンの尾崎光輔、こういった山形県出身の3選手も今出場権の獲得を目指して奮闘している最中でありまして。

その3人への期待というか応援のメッセージも含めてですけども、知事として1月4日の年頭訓示でも応援しているということで、スピードスケートの4人には触れられておりましたし、県として、山形県ゆかりの選手を盛り上げていく方法ですね、何かその平昌（ピョンチャン）に向けて、こういったことで県民の盛り上げを作っていくとかですね、こうい

った応援の場を作っていくとか、お考えになっていることはおありになるのでしょうか。

あとは、知事ご自身がどこで当日は観戦するとか、応援するとか、もしお決めになっているところがあれば、まずは1点目教えていただければと思います。

知事

はい。教育委員会のほうだったと思いますけれども、平昌（ピョンチャン）オリンピックに向けてもですね、メダリスト応援事業というようなことで、助成金といいますか、そういう取り組みを今年度から始めていると思います。

それで、スピードスケートに出場するその4人の方は全員それに該当して、助成させていただいているところであります。

それで、今、記者さんがおっしゃいましたオリンピックに出たいということで大いにがんばっておられる方々いらっしゃると思いますが、本当に県民も大変一緒になって応援しているかと思しますので、もちろんですね、私としては大いにその方々にもオリンピックに出て大活躍をしていただきたいなというふうに思っているところであります。

具体的なところはちょっと担当のほうに聞いてみたいと思いますけれども、今のところ私が平昌（ピョンチャン）オリンピックに行くというような予定はちょっと立っていないところでございます。気持ちは行きたいのでありますけれども、そういう予定はちょっと立っていないところでございます。

応援とかそういうことで何か考えておりますでしょうかね。

教育委員会総務課長

教育委員会総務課長の奥山と申します。

教育次長が公務出張のため、私が代わってお答えしたいと思いますけれども、現段階で県民運動のような形でですね、何かイベントを行うようなところまでは想定しておりませんが、できる限り多くの選手がですね、オリンピックに、山形県ゆかりの選手が出場できるように支援をしているというところでございます。

知事

よろしいでしょうか。観光文化スポーツ部というのもできておりますのでね、やっぱり「スポーツ」もちゃんと冠しておりますので、これからもですね、皆さんのお気持ちを踏まえて様々な取り組みをしていければというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

知事は県体育協会の会長もお務めになっておられますので、是非、様々なパブリックビューイング等もあるかと思しますので、そういったところの応援とか、一緒になって県も

取り組んでいただければなというふうに思います。

もう1点目、話題が変わりまして、先日逝去されました連合山形の岡田会長の件です。

知事、先日コメント出されましたけども、岡田会長におかれましては、知事の選挙、特にですね、これまでの知事選で3回にわたって知事をお支えになってこられた方だというふうにも思います。知事としても様々な、県の委員と審議会委員ということもありますけども、知事も様々な面で公私ともに御相談なさったり、お話をなされた方だと思いますので、岡田会長が亡くなられたことに関して、知事の思いがもしございましたら教えていただければと思います。

知事

はい。連合山形の岡田新一会長がお亡くなりになった、御逝去されたということは本当に残念なことだというふうに思っております。

今、お話をなされたけれども、2009年に私が知事選に初挑戦して以来のですね、本当に信頼をしていろいろと御相談にも乗っていただいていた本当に大切な方でありまして、井戸を掘ってくださった大事な方々のお一人でございます。

本当に残念というか、ちょっとまだ実感がわかないくらいなのです。ちょっと年末に「インフルエンザに罹っているんだ」というようなことをちょっとお聞きをして、心配をしておりましたが、年明けもちょっと連絡もなかなかつかなかったのでありますけども、いきなり御逝去という訃報に接したものですから、あまりに驚いて、ちょっと実感がわかないというのが本当のところなんです。

本当にこの足掛け10年のお付き合いをさせていただいて、本当に支えていただいた方があります。そうですね、労働界の代表者だとも思っておりますし、労働者の皆さんの、その、「勤労者」という言葉を使っていましたかね、福祉の向上に本当に一生をかけた方があります。本当に大切な方があまりにも早く亡くなられて残念であります。まだまだ山形県ですね、県民の幸せのために活躍をしていただきかけたなとしみじみと思っております。

思想信条は話したことはないのです。私と同じではないかもしれない。ただ、山形県民の幸せのためにというそのところは全く一致していたというふうに思います。それぞれの立場でありますけども、山形県民の幸せのためにという思いが非常に強い方でありました。その1点でやはり私も本当に信頼できる方だなと思っております。

穏やかな、そして温かなお人柄だったと思っております。それでいて内に秘めた強い意志といった側面も併せ持った方でありまして、本当に人望や信望が非常に厚かった方ではないかなと思います。惜しい方を亡くしたなという思いでいっぱいあります。

なんと言っても残念の一言しかないのでありますけれども、ただ、私、岡田会長の恩義に報いる術として、やはり山形県民の幸せのために県政に邁進する、そのことがやっぱり私にとっては岡田会長に対する御恩返しなのではないかなとも思っておりますので、一層

ですね、しっかりと県政に邁進したいというふうに思っております。

今となっては、明日ですかね、葬儀があるということを聞いておりますので、そちらに是が非でも行きたいと思っております。心から安らかな御冥福をお祈りしたいというふうに思っております。